

愛知県環境部の平成 28 年度新規事業等について

平成 28 年 2 月
あいち環境づくり推進協議会

持続可能な未来のあいちの担い手を育成します

予算額 14,500千円

環境部 環境政策課
企画・広報グループ
内線 3015・3019
(ダイヤル) 052-954-6210

将来の環境活動の担い手となる大学生を対象とした「人づくり」を進めるため、平成27年度に設立した「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」をより充実させるとともに、研究所を核として、企業・大学・NPO・自治体等の多様な主体が連携し、地域全体で取組を推進します。

1 かがやけ☆あいちサスティナ研究所の運営

研究所を中心に、大学生の育成、学生・大学間のネットワーク化を図ります。

(1) リーダーの養成

対象：県内大学生40名を研究員として募集 パートナー企業等：10社

(2) 地域環境活動の実践

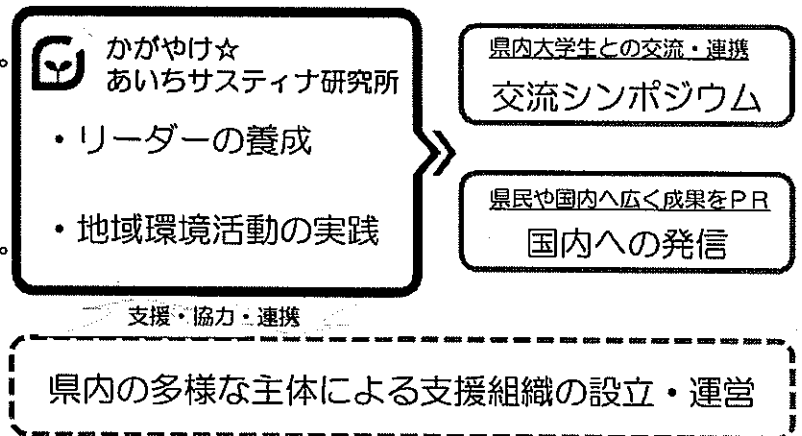
多様な主体と連携して、研究員やOBなどによる環境活動を実践します。

(3) 交流シンポジウムの開催

開催予定時期：11月 参加人数：県内大学生300名

(4) 研究所活動の国内発信

新聞、SNS、全国の環境コンテスト等で成果を発信します。

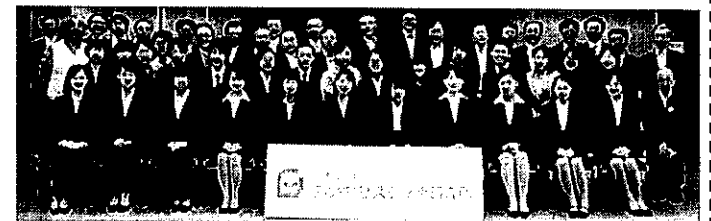


2 支援組織の設立

地域全体で「研究所」の取組を推進するため、経済界や教育機関・自治体等による支援組織を設立します。

かがやけ☆あいちサスティナ研究所とは

先進的な環境に関する取組を実施するパートナー企業等から提示された環境課題に対し、大学生が研究員となり、現場での調査・研究や、企業等の担当者とのディスカッションを通して、解決策を提案するとともに、その成果を広くPRします。



ZEBを目指して、環境調査センター・衛生研究所を PFI手法により整備します

予算額 12,856千円
(外に債務負担行為 6,769,400千円)

とりまとめ
環境部環境政策課
環境調査センター建設グループ
内線 3011・3022
(ダイヤルイン)052-954-6624

老朽化等により建替えが必要となっている環境調査センター・衛生研究所について、平成28年10月の事業契約の締結に向けて、PFI事業者の選定手続きを進め、施設整備（建替え）を開始します。

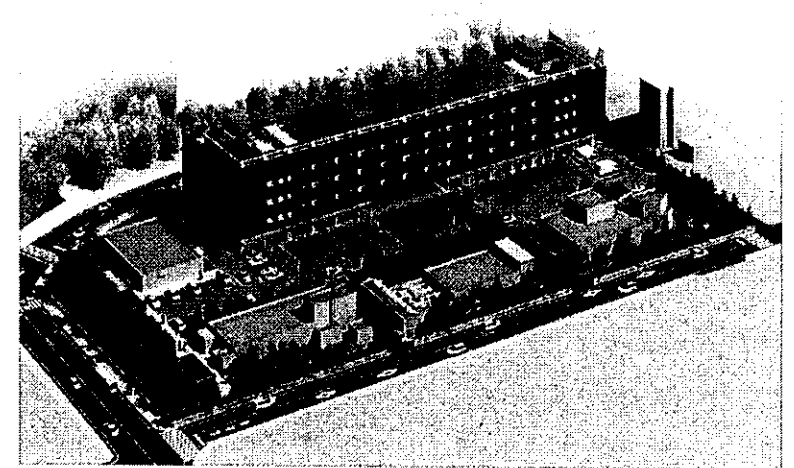
- 環境調査センター・衛生研究所整備推進費 12,856千円

民間事業者の選定及び事業契約等の諸手続きに関する導入支援業務（アドバイザー契約）等

【整備の基本方針】

- 本県の環境行政、衛生行政における拠点施設の機能維持
- 環境首都あいちにふさわしい全国モデルとなる新エネ・省エネ施設
具体的には、「エネルギー消費の多い試験研究施設で全国トップクラスとなるZEB（ゼロ・エネルギー・ビルディング）」を目指します。
 - 建物のエネルギー消費を現状より約83%削減
- 県民に親しみを持ってもらえる施設
(県民向け展示室の設置・見学ルート整備等)

基本設計に基づく新施設のイメージ



【場所】

名古屋市北区辻町地内（現在の場所で機能を維持しながらの建替え）
敷地面積：1.3 ha 延床面積：約7,912㎡（地上4階建て）

【事業範囲】（PFI事業契約分）

本館・研究棟及び排水処理棟の建設工事（実施設計、既設施設の取壊し、外構工事を含む）並びに既設施設を含めた敷地全体の維持管理

【事業実施スケジュール】

平成28年10月～ 設計・建設期間（2.5年間）
平成31年4月 新施設の供用開始（維持管理期間15年間（平成46年3月まで））

県民のエコアクション（環境配慮行動）を促進します

予算額 12,455千円

環境部環境活動推進課
環境学習グループ
内線 3027・3028
(ダイヤル) 052-954-6208

「県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』を実現するため、県民参加型の環境イベントの開催や愛知県環境学習施設等連絡協議会（AELネット）のネットワークを活用しながら、県民一人ひとりの省資源・省エネといったエコアクション（環境配慮行動）を促進します。

1 エコアクション推進フェアの開催

エコアクションの意識を高めるため、NPOや民間企業等の環境活動の成果を発表したり、県民が楽しみながら環境問題について考えることができる参加型のイベントを開催します。

開催時期 平成28年11月

2 AELネットを活用したスタンプラリーの実施

AELネット加盟施設等が連携して環境学習スタンプラリーを実施することにより、様々な環境学習の機会を提供します。

開催時期 平成28年6月～平成29年2月

<AEL（あえる）ネット>

愛知県環境学習施設等連絡協議会（Aichi Environmental Learning Network）の愛称。県内の環境学習施設等が協力して、地域における環境学習の推進を図るために平成20年3月に設置。平成28年1月末現在で160施設等と33市町村が加盟。

<エコアクションの例>



<スタンプラリー参加方法>



「子育て」や「学び」の場でインタープリターによる自然体感型の環境学習を推進します

環境部環境活動推進課
環境学習グループ
内線 3027・3028
(ダイヤル)052-954-6208

予算額 13,886千円(新規)

インタープリターによる自然体感プログラムを「子育て」や「学び」の場に取り入れて、幼いうちから自然に触れ、学び、気づきを与えることにより、環境のことを考え、行動する人づくりを推進します。

1 自然と向き合う体験の提供

愛・地球博記念公園内にある環境学習拠点施設「もりの学舎」を中心にして、未就学児童等を対象にして自然体験を通じた環境学習事業を実施します。

<内容>

- ・未就学児童とその保護者を対象にして年間を通して行う「もりの学舎ようちえん」
- ・県内の保育所、幼稚園の園児をもりの学舎に招いて行う「一日もりのようちえん」
- ・保育所、幼稚園へインタープリターが出向いて行う「森の伝道師派遣」
- ・園児向けの新たな「自然体感プログラムの策定」

2 指導者の育成

<内容>

- ・保育士や幼稚園教諭を対象に自然の大切さを理解し、自然体感型の学習プログラムを実施するノウハウを身につけてもらう研修を実施
- ・次の時代を担う若いインタープリターの養成

※インタープリター(interpreter)

自然観察や自然体験を通して、自然が発するメッセージの意味や自然の価値を伝えること(インタープリテーション)を行う人。

愛知万博の自然学校で、「森の案内人」とも呼ばれたインタープリターが活躍し、一般に広く知られるようになった。



あいち地球温暖化防止戦略2020を推進します

予算額 1,025,309千円

環境部大気環境課
地球温暖化対策室
温暖化対策グループ
内線 3055・3056
(ダイヤル) 052-954-6242

CO₂排出量を削減し、地球温暖化を防止するため、「あいち地球温暖化防止戦略2020」に基づき、省エネ活動の推進や再生可能エネルギーの導入促進を図ります。

1 あいち地球温暖化防止戦略推進費

19,692千円

- ・COP21で日本政府が約束した2030年度の目標を受け、新たに「あいち低炭素社会づくり戦略（仮称）」を策定するための検討を行います。（平成29年度策定予定）
- ・事業活動における温室効果ガスの削減を図るため、中小企業等を対象として電話や訪問等による相談・アドバイスをを行います。

2 温暖化防止県民運動推進事業費

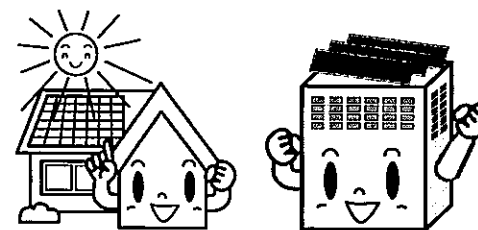
1,269千円

- ・市町村開催のイベントへのブース出展や小学生向け出前講座（ストップ温暖化教室）を開催し、エコライフの実践を促進します。

3 住宅用地球温暖化対策設備導入促進費補助金

140,000千円

- ・家庭部門から排出されるCO₂を削減するため、設置基数全国一を誇る住宅用太陽光発電施設を始めとし、HEMS（家庭用エネルギー管理システム）、燃料電池、蓄電池、電気自動車等充給電設備の設置補助を実施する市町村に対して、補助を実施します。
- ・補助対象に集合住宅を追加します。



4 再生可能エネルギー等導入推進基金事業費

864,348千円

- ・平常時における低炭素化と、災害時における電力の確保のため、市町村の防災拠点となる公共施設へ再生可能エネルギー等（太陽光発電施設・蓄電池等）を導入します。

次世代自動車の普及に向けて あいち自動車環境戦略2020を推進します

環境部 大気環境課
地球温暖化対策室
自動車環境グループ
内線 3037・3038
(ダイヤル) 052-954-6217

予算額 175,050千円

電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）を始めとする次世代自動車の普及を促進するため、「あいち自動車環境戦略2020」に基づく取組を推進します。

1 戦略推進費 937千円

「あいち自動車環境戦略2020」に基づき、大気環境基準を確保するため、EV・PHV・FCVを始めとする次世代自動車の普及促進に向けた啓発事業等を進めます。

2 次世代自動車普及促進事業費 3,005千円

「あいちEV・PHV普及ネットワーク」の参加者と協働して、EV・PHVのさらなる普及に取り組むとともに、「愛知県次世代自動車充電インフラ整備・配置計画」に基づき充電インフラ整備を継続して促進します。

また、EV・PHV・FCVを対象とした本県独自の自動車税の課税免除制度を継続して実施します。

※「あいちEV・PHV普及ネットワーク」とは
EV・PHVの本格的な普及促進に向け、平成21年4月23日に関係実施主体と県が協働して設立した組織。団体数：99団体（平成28年1月末現在）

3 低公害公用車導入費 37,703千円

公用車としてプラグインハイブリッド自動車（PHV）等を導入します。

4 低公害車導入促進費補助金 133,405千円

旅客・貨物運送事業者や中小企業等の事業者に対し、EV・PHV・FCVを始めとする低公害車を導入する経費の一部を補助します。

燃料電池自動車



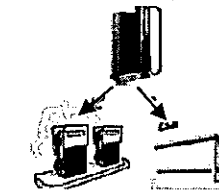
プラグインハイブリッド自動車



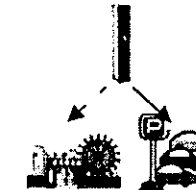
【充電インフラのイメージ】

(急速充電器)

(普通充電器)



ガソリンスタンド



テーマパーク コインパーキング

低炭素水素のサプライチェーンの構築・事業化 に向けた検討を行います

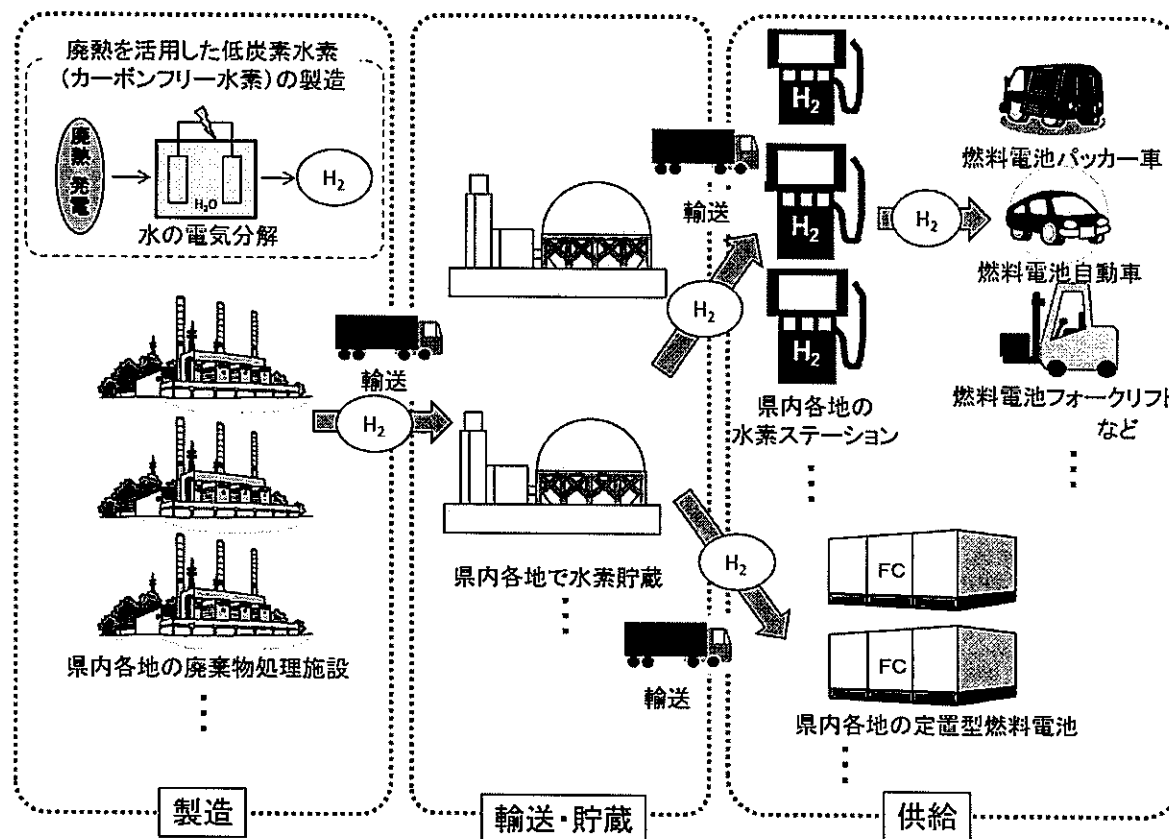
環境部 大気環境課
地球温暖化対策室
自動車環境グループ
内線 3037・3038
(ダイヤル) 052-954-6217

予算額 21,823千円（新規）

県内の廃棄物焼却炉の廃熱（未利用エネルギー）などを活用し、発電した電気の一部を使って水素を製造、輸送・貯蔵し、水素ステーションなどに供給する我が国初の水素サプライチェーンの構築・事業化に向けた検討を産・学・行政の協働で行います。

検討内容

- 水素サプライチェーンの構築・事業化
 - ・ 未利用エネルギーの利用可能量調査
 - ・ 水素の輸送・貯蔵技術の把握
 - ・ 事業の採算性の検討 等
- 実証事業の実施計画策定
 - ・ 事業の実施主体、実施方法
 - ・ スケジュール 等



「三河湾環境再生プロジェクト」を推進します

予算額 12,620千円

環境部水地盤環境課
三河湾環境再生グループ
内線 3042・3044
(ダイヤル)052-954-6220

県民、NPO、企業、関係団体、教育機関及び行政等が一体となって、「三河湾環境再生プロジェクト」一よみがえれ！生きものの里“三河湾”一として、三河湾の環境再生に向けた各種取組を実施します。

三河湾環境再生の推進 8,593千円

三河湾に関わるNPO、企業、関係団体、教育機関、行政などからなる「三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ」(平成27年6月設立)と連携・協働し、三河湾大感謝祭など、三河湾の環境について関心を深める事業を実施します。

また、本クラブの趣旨に賛同し応援していただける方をサポーターとして広く募集し、県民の皆様と一体となって、三河湾の環境再生を推進します。

【主な事業】

- ・三河湾大感謝祭
時期：夏頃(1回)、場所：三河湾沿岸地域
内容：活動発表、クルージング、海の幸の試食等
- ・三河湾環境学習会
時期：夏頃(1回)、場所：三河湾内
内容：「愛知丸」船上での環境測定体験等
- ・集客施設等における三河湾のPR活動
時期：春～秋頃(4回)
内容：生きものの展示、三河湾の状況や県の取組の紹介等

三河湾環境再生体験会等の開催 1,027千円

干潟の生きものや水質浄化機能等の観察に加え、砂の流出防止のための木杭打ちなどの干潟の保全体験を盛り込んだ、三河湾環境再生体験会等を開催します。

時期：夏頃(2回)

場所：三河湾沿岸地域

内容：生きものの観察や干潟の保全体験等



市町村・NPO等の活動支援 3,000千円

三河湾の沿岸や流域における水質浄化の取組を推進するため、市町村、NPO等の環境活動を支援します。

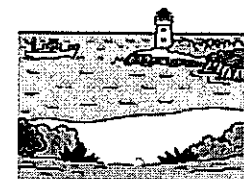
支援団体：3団体以上

時期：春から秋頃

場所：三河湾沿岸

活動例

- ・干潟での生きものの観察会
- ・体験活動
- ・海岸清掃 など



「ほの国」東三河の豊かな自然の魅力を発信する 人材を育成します

予算額 4,600千円

環境部 自然環境課
生物多様性保全グループ
内線 3096・3095
(ダイヤル) 052-954-6475

「ほの国」東三河において、豊かな自然の魅力を発信する人材を育成し、その人材を活用したイベント等を開催することにより、自然環境の保全・再生の取組を一層推進します。

1 自然の魅力発信リーダー養成・イベント開催

フェイスブックやブログなどで情報発信力が高い女性を自然の魅力発信リーダー（里山女子）として養成し、その人材を活用して、次世代を担う子どもを対象に楽しく自然を感じてもらうためのイベントを開催します。

○自然の魅力発信リーダー養成講座（6月～8月（3日間））

・対象：18歳以上の女性 30名

○親子自然の魅力発信イベントの開催（8月～2月（4回））

・対象：親子（小学生以下の子供と親）15組／回

2 フィールド・団体マッチング事業

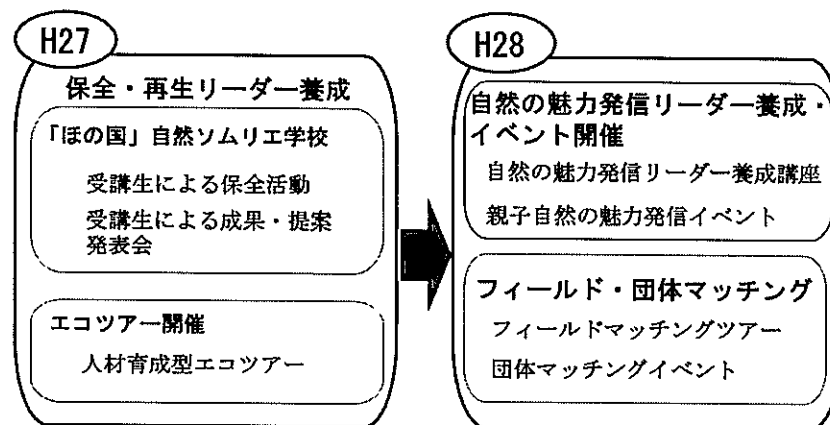
「ほの国」自然ソムリエ学校の受講者とフィールド・団体をマッチングします。

○フィールドマッチングツアー（8～9月（2回開催））

・内容：育成した人材が保全を必要とするフィールドを専門家とともに巡ることで、自分にあった活動場所を見つける日帰りバスツアー（2回・3箇所／回）

○団体マッチングイベント（8月）

・内容：既存団体での活動を希望する者に対して、人材不足に悩む東三河の自然環境保全団体を紹介するイベントの開催



生物多様性保全の世界目標「愛知目標」の達成に向け 国際的な協働を進めます

環境部自然環境課
生態系ネットワークグループ
内線 3065・3066
(ダイヤル) 052-954-6229

予算額 30,081千円（新規）

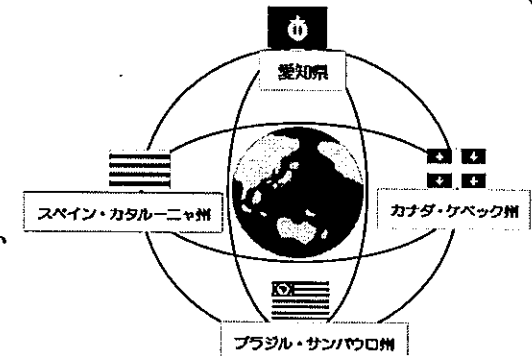
生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された「愛知目標」※1の達成に向け、生物多様性の保全に先進的に取り組む海外のサブナショナル政府※2と「愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合（仮称）」を立ち上げ、世界の生物多様性保全の取組を促す共同アピールを行います。

※1：COP10で採択された生物多様性保全に係る2020年までの世界目標 ※2：州・県レベルの広域自治体

1 先進サブナショナル政府との定期的な情報共有・意見交換

COP11やCOP12などを通じて交流を深めてきた世界の先進サブナショナル政府と、ウェブ会議により生物多様性保全の取組に関する情報共有や意見交換を定期的に行います。

〔先進サブナショナル政府の例〕 スペイン・カタルーニャ州、カナダ・ケベック州、
ブラジル・サンパウロ州 等



2 COP13における共同アピールの実施

COP13におけるサイドイベント等において、先進サブナショナル政府による生物多様性保全の取組発表や国際先進広域自治体連合（仮称）としての共同アピールを行い、世界各地域の取組の活性化を図ります。

〔COP13開催地〕 メキシコ・カンクン 〔開催時期〕 平成28年12月



「あいち森と緑づくり税」を活用し、森と緑を育み、 守る取組を推進します

予算額 2,436,243千円

とりまとめ
農林水産部農林基盤局森林保全課
森と緑づくり推進室 森林里山再生グループ
内線 3770・3771
(ダイヤル) 052-954-6455

「あいち森と緑づくり税」を活用し、森林、里山林及び都市の緑の整備・保全を進め、森と緑の持つ様々な公益的機能を発揮させます。

1 森林整備事業費 (農林水産部) 1,529,705千円

- ・ 奥地や公道・河川沿い等の整備が困難な森林の間伐
(奥地林1,200ha、公道・河川沿い300ha)
- ・ 放置された里山林の再生



【森林整備】

2 都市緑化推進事業費 (建設部) 640,000千円

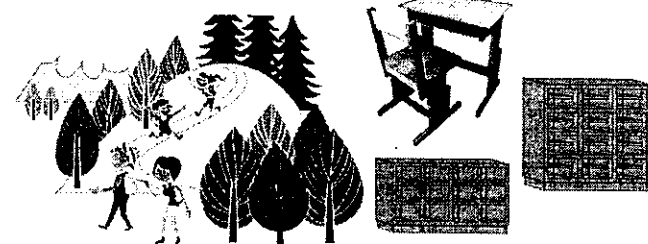
- ・ 都市における身近な樹林地の保全、緑地の創出
- ・ 民有地の緑化
- ・ 美しい並木道の再生
- ・ 県民参加による樹林地整備や植樹等の体験学習及び緑づくり活動への支援



【都市緑化】

3 環境活動・学習推進事業費 (環境部) 70,797千円

- ・ 市町村やNPO等が行う環境保全活動や環境学習への支援



【環境学習等】

【県産木材製の製品を導入】

4 事業推進費 (農林水産部) 195,741千円

- ・ 森林整備に必要な技術者の養成
- ・ 小中学校に県産木材製の学習机・椅子、ロッカー・下駄箱等を導入
- ・ 市町村が行う木材搬出など県産木材利活用の取組への支援
- ・ 森と緑づくり事業の普及啓発